

市民参画と協働の為の情報共有の取組実績調査表

資料2 南区
H26.10.16

【南区総務企画課】検証対象事業名及び概要、目的など

細事業名	概 要
南区まちづくり推進経費 南区シンボルマーク作成	南区の特性をイメージしたシンボルマークを区民公募等により作成した。 自分達の住む地域のシンボルマークを自分達で作ることで、改めて地域の魅力を見直し、より南区を知り、地域への愛着を育んでいただくことが、区の特性を活かしたまちづくりに繋がる。

1 検証対象事業の参画・協働の取組実績(検証のチェックシート①)

参画・協働 の取組・説明	参画	◇シンボルマーク説明会(勉強会・マーク作成作業)をワークショップにより実施 ◇シンボルマーク審査会をワークショップにより実施
	協働	――

2 検証対象事業の情報共有の取組実績(検証のチェックシート②)

情報発信の時期	◆平成25年6月～(市政だより7月号<説明会開催>)(別紙資料①) ◆平成25年7月～(市HP<説明会開催>)(別紙資料②) ◆平成25年8月～(市政だより9月号<選考会>)(別紙資料③) (市HP<作品公募><選考会>) ◆平成25年9月～(区フェイスブック<選考会>)(別紙資料④) (市HP<選考結果><表彰>)(別紙資料⑤)
活用した情報媒体	◆市政だより(別添資料のとおり)(別紙資料①) ◆市(区)ホームページ(別紙資料②⑤) ◆市政だより(別添資料のとおり)(別紙資料③) ◆南区フェイスブック(別添資料④) ◆管内まちづくり交流室等への説明会チラシ(別紙資料⑥)及び応募用紙(別紙資料⑦)の設置
対象者の興味関心を引くための工夫	◆管内の28小中学校を直接訪問して、事業趣旨等の説明を行うとともに、児童・生徒への呼びかけを依頼した。 ◆南区PTA連絡会の会合に出向き、事業趣旨等の説明を行うとともに、参加を呼びかけた。 ◆説明会参加者一人ひとりに“地域のしるしアドバイザー”認定証(別紙資料⑧)を手渡すなど、説明会から公募、選考会まで、シンボルマークづくりへの興味・意欲を持続してもらうよう工夫した。 ◆応募用紙(別紙資料⑦)については、“誰か”と“向き合いながら”南区の魅力について、話し、デザイン、作成できるものとした。
事業の目的や内容について、対象者の理解を深めるための工夫や取り組み	◆説明会(7月14日)では、“南区の魅力”の他、“シンボルマークの意味”“みんなでシンボルマーク”を考えることの意義”を専門家から説明してもらうとともに、その日に学んだことを活かしてマーク作りの練習をしてもらうなど、参加者の理解を深めるよう努めた。
事業の目的や必要性が、対象者に浸透していると思われるか	◆85名から応募があった134点の作品すべてが、南区の特性、魅力である歴史や山、川などの豊かな自然、農水作物や人の優しさなど、参加者が各々に感じ、また、あらためて魅力等と再認識したものをモチーフにしたものとなった。 ◆対面式で書く応募用紙の工夫により、“誰か”と書いたものが多く、下は6歳から上は68歳まで、幅広い年齢層からの応募があった。 ◆説明会、区民公募、審査会をとおしての周知等により、その目的や必要性については浸透していると考え る。 ◆確定後は、市政だより、区だより、区HP、フェイスブックの他、フリーペーパー等で広く活用しており、今後も区民への周知に努める。

3 細事業における、市民参画・協働による効果について(検証のチェックシート③)

予想以上の多種多様なモチーフを元にデザインされた作品の応募があった。
